

第23回

日本耳鼻咽喉科漢方研究会 学術集会

講演要旨集



日 時

平成19年10月13日(土)
13:00~17:55

場 所

シェンバツハ・サボー
千代田区平河町2-7-5 砂防会館
TEL: 03-3261-8386

会 長

小川 郁
慶應義塾大学 教授

高齢者医療における漢方治療の意義

慶應義塾大学医学部 漢方医学講座

渡辺 賢治

わが国は高齢社会から超高齢社会へと移行しつつある。こうした社会的変化を背景に、漢方に対する期待が高まっている。その理由として、漢方は個別化治療が基本であり、個人差を重視した治療をする。これは高齢者の治療において重要な要素の一つである。すなわち、暦の年齢と肉体年齢に格差のあることが多く、単純に暦の年齢が同じといっても個人差が大きい。また、高齢者は複数の疾患を抱えていることが多く、原因究明ができない場合も多い。漢方は疾患ごとに治療があるわけではなく、病んでいる人を治す医学であるから、複数の疾患があっても単一の製剤で対応するのが原則である。もっとも一つの製剤といっても実は複数の生薬から成り、一つ一つの生薬が複数の成分を含んでいるために薬効も多岐に亘るのである。また、薬物代謝が衰えていても、もともと作用はマイルドで副作用が少ない。

こうした漢方の特徴を、高齢者治療に生かすことで、より良い医療が提供できるものと思われる。特にわが国では高齢社会から超高齢社会に突入しようとしている中、医療費高騰が大きな課題である。漢方が医療経済的に恩恵をもたらす、という報告がいくつかあるが、その理由の一つとして、複数の疾患に対して1ないし2種の薬剤で対応するために、薬剤費の節減が可能、というものである。もう一つは漢方薬を服用していると、基礎免疫力が衰えている高齢者に対し、免疫賦活作用があるため、重篤な疾患に罹らず、抗生剤等が節約できる、というものである。単独での使用のみならず、西洋薬との併用で医療費削減ができる分野は数多く存在する。今後の医療費削減対策の中で、漢方はなくてはならないツールの一つと考えられる。耳鼻咽喉科領域においてもめまい、耳鳴り、頭痛等高齢者の抱える疾患に漢方が有用な場合も数多くあり、適切に用いることで、治療効果が高まることで患者満足度が向上し、医療費削減にもつながると期待される。